

# 月刊ウィーン GEKKAN-WIEN

現地オリジナル取材と編集で  
ウィーンを伝える月刊情報紙  
創刊平成元年 創刊28年目  
創刊1989年 Nr.323

## 2016年5月号



Vinzenz Fischer, Allegorie auf die Übertragung der kaiserlichen Galerie in das Belvedere, 1781 Öl auf Leinwand 57 x 47 cm © Belvedere, Wien

ヴァインツェンツ・フィッシャー「帝室画廊のベルヴェデーレへの引き渡しのアレゴリー」1781年 プリンツ・オイゲン冬宮 Winterpalast にて展示中



# 杉本純の原子力の話II ウィーンと京都 56



三月六〜八日にかけて、日本原子力学会春の年会在が東北大学川内キャンパスにおいて開催された。福島第一原子力発電所事故関連では、特別セッション「東電福島第一事故から五年を経て、学会活動の総括と課題」および総合講演「福島原発事故で発生した廃棄物の合理的な処理・処分システム構築に向けた基礎研究」が開催されるとともに、「福島第一原子力発電所事故時の核分裂生成物挙動」、「福島第一原子力発電所における今後のリスク要因とその防護策」など部会・委員会による六セッションで報告と討論が行われた。このほか、二五件の部会・連絡会、委員会・連絡会、



「原子力学会賞の授賞式も開催された。筆者の研究室の古川君が風邪を引きながらもシビアアクシデント関連の実験に関する研究発表を無事こなしたことに指導教官としてホッとした。また、上記の福島事故関連セッションや研究発表に対して、筆者から適宜質問やコメントをするとともに、近藤氏（熱水力研究室）との福島事故関連の解析に関する共

同研究成果を発表した。熱流動部会全会議では表彰小委員会委員長として部会史上初めて主たる柱に受賞者が選考されたことを報告した。京大を定年退職する直前の最後の学会において、学会フェローの称号が授与されたこと、ウィーン赴任時に良く通った和風レストラン「蓬菜園」の加藤元店長と仙台で食事が出来たことが個人的には特記される。

さて、今月のウィーンと京都の対比では、両市の最古の教会と寺について述べてみたい。地下鉄シュヴェーデンプラッツ駅から徒歩四分にあるルプレヒト教会は、ザルツブルクの宣教師クーニアルトとギスラーが紀元七四〇年に創立したと伝えられるウィーン最古の教会である。教会で最も古い壁は二世紀のもので、二七〇年ごろから現存するウィーン最古のガラス窓も残されている。今日も使用されている二つの鐘は三世紀のもので、鐘吊り棒にネジを使わない方法で留められている。複数回に渡る増築により、ロマネスク様式やゴシック様式、バロック様式とさまざま

な建築様式が融合されている。内陣前方の柱の上には一四世紀に作られた聖ルプレヒトの木像がある。後方の柱には一五二五年頃の後期ゴシック様式のマリアと幼子イエス像がある。

一方、京都市右京区の大秦にある広隆寺は、六〇三年に秦河勝が聖徳太子から賜った仏像を本尊として今の北区平野神社付近に創建され、七九四年の平安遷都前後に現在地に移転したとされる京都最古の寺院である。蜂岡寺、秦公寺（はたのきみでら）、大秦寺などの別称があり、地名を冠して大秦広隆寺とも呼ばれ、帰化人系の氏族である秦氏の氏寺である。創建当初は弥勒菩薩を本尊としていたが、平安遷都前後からは薬師如来を本尊とする寺院となり、薬師信仰とともに聖徳太子信仰を中心とする寺院となった。国宝指定第一号の弥勒菩薩像は、ドイツの哲学者カール・ヤスパースが「人間実存の最高の姿」と激賞したことはよく知られている。両者とも建立がほぼ同時代であり、今も現存することがよく似ている。

余談であるが、筆者はルプレヒト教会を外からは良く見たが中に入ったことはなかった。広隆寺は高校の修学旅行で弥勒菩薩像を凝視したことを良く覚えている。両市の最古の教会と寺を紹介できた幸運に感謝しつつ、ウィーンでは二番目に古いとされるペーター教会のスケッチを掲載させていたたく。

■杉本純 前京都大学教授  
元原子力機構ウィーン事務所長 ■

